

福山大内海研報 (34), 1 (2024)

日本水産学会中国四国支部企画シンポジウム

瀬戸内海の“いま”～里海の藻場と干潟～

日時：令和5年12月17日（日） 9:00～12:00

会場：学校法人福山大学社会連携推進センター9F プレゼンテーションルーム（広島県福山市丸之内1丁目2番40号）

●プログラム

- 9:00～9:05 開会挨拶 有瀧真人（日本水産学会中国・四国支部長）
9:05～9:10 趣旨説明 阪本憲司（福山大生命工）

座長：北口博隆（福山大生命工）

- 9:10～9:30 「沿岸域における干潟・藻場の機能と役割」 一見和彦（香川大学）
9:30～9:50 「山口県沿岸の藻場の現状と海藻利用」 阿部真比古（水産大学校）
9:50～10:10 「瀬戸内海中西部におけるガラモ場と干潟の魚類相」 富山 毅（広島大学）
10:10～10:30 「気候変動による水温上昇が瀬戸内海の藻場や藻類養殖に与える影響」
島袋寛盛（国立研究開発法人水産研究・教育機構）

座長：太田健吾（福山大生命工）

- 10:30～10:50 「瀬戸内海中央部における海藻相の変化について」 山岸幸正（福山大学）
10:50～11:10 「瀬戸内海の流れ藻に出現する葉上動物群集の特徴」 金子健司（福山大学）
11:10～11:30 「瀬戸内海中央部の魚類相と集団遺伝構造」 阪本憲司（福山大学）
11:30～12:00 総合討論

【開催趣旨】

瀬戸内海は大小700を超える島が存在するとともに、7,000kmを超える海岸線を持つことから、多くの藻場や干潟が存在する。これらの豊かな自然環境に人手が加わることで「里海」が形成され、「豊饒の海」とも呼ばれる瀬戸内海の高い生物生産性と生物多様性が維持されてきた。しかし、近年、地球温暖化や排水規制などの人為的要因等によって、瀬戸内海を取り巻く環境は大きく変化している。「豊饒の海」を未来へ受け継ぐために、我々に課せられたことは何なのか？それを明らかにするためには、過去と未来をつなぐ「いま」の瀬戸内海の現状を知る必要がある。本シンポジウムでは、過去からの藻場や干潟の変化を把握し、「いま」を理解した上で、未来を見据えた「豊饒の海～瀬戸内海」の持続可能性を考えたい。